

構造家・平岩良之

『喋る』構造家

朝倉幸子◎TH-1

illustration:Taco

■我が道

構造家の平岩良之さんは、一応「奈良県」出身。茶筌が有名な生駒市で1982年に生まれた。隣接の「大阪府出身」と使い分けているらしいが、優秀な人材世代の遊泳術かもしれない。小学生で建築に進むと決めて、京都大学志向の生徒が多い高校から東京大学へ見事突破。構造家の新谷真人先生の構造エスキスを受け、4年生にはアルバイトして響くものがあった。それが契機で、構造設計で名を上げよう！とターゲットを絞る。交換留学で一年間を、ドイツを皮切りにヨーロッパ建築見学とビール三昧で過ごした。大学院では、建築における安全性を「確率論」により評価する高田研究室で研究した。「お給料を貰える設計から一番遠そうだから選んだ」というのは、あまのじゃくな父親譲り……と自己分析する平岩さんなのです。

留学中にロンドンのテートブリッジの上で、バッタリと建築家・難波和彦さんに遭遇したのも何かの縁。その後、構造家・佐々木睦朗先生を紹介されて、2007年に佐々木睦朗構造計画研究所に入所する。新谷先生に「来てくれると思った」と残念がられた。法政大学教授の浜田英明さんは先輩だが、留学の一年がなければ同期生に当たる。

■徒弟時代

入所して間もなくから、佐々木先生の打合せや講演のお供で海外に行くようになった。この頃には佐々木睦朗構造計画研究所では、海外のエリアごとに担当者を決めて効率よくプロジェクトを進めていた。通訳で四苦八苦しながらも、パリの集合住宅(SANAA)、アメリカのグレイス・ファームズ(SANAA)、磯崎新アトリエの中国案件など、海外プロジェクトが多くて、平岩さんの活躍の場は国外へ広がった。

入所して一番よかったと感じたのが、所員どうし

の結束だという。余りにも抜きん出たトップに対しては必然であったが、優秀な先輩後輩に助けられたという。次に、平岩さんが11年いてその立場になり、自分がつくっていたプログラムを皆に共有して少しは役に立てたと思うのです。建築家・伊東豊雄さんの今治市伊東豊雄建築ミュージアムや新青森県総合運動公園陸上競技場の構造設計を担当して、青森の現場が上棟した2017年に独立したのです。

■喋る構造家に

難波和彦さんとは箱の家でも一緒にしたが、母親譲りの明るさから「平岩はうるさいから喋ることのできる構造家になれ」といわれた。語学でなら構造家の磯崎あゆみさんが海外で活躍している。多少憧れをもっていた海外での活動は、ハードルが高いと感じていたからよい助言を頂戴した。2016年から海外で教える機会をもつようになり、問題は語学力ではなくて中身ののだと感じる。佐々木先生のMoMAでの構造シンポジウムで再会したSANAAのOBのアンジェラ・パンさんのデザインスタジオに誘われてセントルイス・ワシントン大学やコーネル大学で教えた。明治大学の設計スタジオで構造の講師をしたり多忙である。

主宰する平岩構造計画では、スタッフに任せる方針でフラットな関係をつくっている。「皆と同様、子育てしながらの仕事。所長としては打合せや調整が主で、相談しながら進めています」。木造で取り上げられるが、実は佐々木先生譲りで鉄骨が好き。

地図編集者の父親に鍛えられて道案内は得意だ。現場出張先の地方から微妙な写真を父親に送って「地名当て」を楽しんだりする。逸材の構造家は親孝行も息抜きもお見事です。

